

## 博士論文要旨

学籍番号	1208001	氏名	岩村 龍子
論文題目	健康危機に対応できる看護職育成のための学士課程教育のあり方に関する研究		
<p><b>目的：</b>健康危機の中でも特に自然災害を例に、看護職が果たす役割・機能とその能力を明らかにし、この能力の学士課程における卒業時到達目標および教授すべき内容・方法を検討することにより、健康危機に対応できる看護職育成のための学士課程教育のあり方を検討する。</p> <p><b>方法：</b>方法1では、災害対応の実践活動を扱う文献検討および文献の著者である看護職等へのインタビューにより、災害対応における看護職の役割・機能と看護職に必要な能力を明らかにした。方法2では、災害対応に必要な看護職の能力の卒業時到達目標を、学士課程におけるコアとなる看護実践能力との関連から検討した。方法3では、災害看護教育に先進的に取り組む大学の教員へのインタビューとシラバス等の資料分析により、その教育の現状を把握した。方法4では、一大学における災害看護教育の現状をシラバス調査と教員へのインタビュー、在学生・卒業生への質問紙調査により把握し、当大学での災害看護教育の充実に向けた検討を行った。方法5ではこれらの結果を統合し、災害対応に必要な能力の卒業時到達目標、教育方法・内容を提示し、健康危機に対応できる看護職育成のための学士課程教育のあり方の検討の基礎資料とする。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>方法1：災害時期別の看護職の役割・機能は、準備期5項目、急性期8項目、亜急性期～慢性期9項目に分類された。災害対応に必要な能力は、小分類127、中分類20、さらに「災害時の看護職の役割・責任を認識し研鑽・備えに取り組む能力」等の6つの大分類となった。</p> <p>方法2：能力別の卒業時の到達目標28件から、「災害時の対象者の状況を理解することにより、人々の人権や、思い・考え、主体性を尊重した援助姿勢をとることができる」等、学士課程における6つの到達目標が明らかになった。</p> <p>方法3：先進的に災害看護教育に取り組む大学では、各大学の理念・考え方に基づき、特徴ある教育がなされていたが、必修科目での目的・目標や教育内容、被災状況のイメージ化を図る等の教育の工夫には共通性が見られた。</p> <p>方法4：災害発生時の病院での初動を扱う学習や、実習を活用した災害やその備えの意識を高める教育、災害看護科目の設置の方向性を含めた全学的な検討の等の必要性が明らかになった。</p> <p>方法5：学士課程においては、災害時の健康・生活課題や対応システム、災害対応での看護職の役割・機能、責任の理解を図り、対象のニーズや状況に応じてケアを開発する看護のあり方の検討や、災害への備えの検討ができる必要がある。</p> <p><b>考察：</b>抽出できた災害各期の役割・機能は各領域にわたる平常時の看護を基盤に災害時の状況に応じて発揮するものであるため、その能力の基盤を培う学士課程では、すべての領域で災害看護を教授する必要がある。健康危機に係る教育の充実を図ることにより、医療・看護のニーズの拡大・多様化に対応する能力の基盤育成、看護実践能力の向上、看護職としての基本的姿勢の教育の強化、看護専門職としての能力開発や看護実践の充実・発展に継続して取り組む能力の強化が可能となり、学士課程における看護学教育の充実につながる事が期待できる。</p>			

## 平成 23 年度博士論文審査結果報告書

主 査	黒江	ゆり子
副 査	小西	美智子
副 査	北山	三津子

平成 23 年度博士論文の審査及び最終試験を実施した結果は、下記のとおりです。

### 記

学籍番号：1208001

氏 名：岩村 龍子

審査結果： 1 . 合格      2 . 不合格      3 . 保留

[ 審査結果要旨 ]

( 1,000 字以内 )

本研究（論文題目「健康危機に対応できる看護職育成のための学士課程教育のあり方に関する研究」）は、自然災害に対して看護職が果たしている役割・機能とその役割・機能を発揮するための能力を明らかにし、この能力の学士課程における到達目標、教授すべき内容・方法を検討し、健康危機発生時に対処できる看護職育成のための学士課程教育のあり方を追求したものである。

看護職が自然災害発生に伴い行うべき役割・機能を果たすために必要な能力は、医療機関、保健所・市町村、訪問看護ステーションの活動報告および面接調査の分析から、災害対応における看護職の役割・責任の認識、支援ニーズの情報収集・アセスメント、対象の回復への支援、平常時のリスクマネジメントと災害時の安全確保、関係者との連携活動、状況に応じた看護ケアの工夫・開発の 6 項目が挙げられた。

これら能力を「学士課程においてコアとなる看護実践能力」で示されている能力と対比し検討した結果、災害時に対応できる看護職育成を目指す学士課程における卒業時到達目標は、対象者の主体性を尊重した援助姿勢、災害に伴う健康・生活課題への看護援助、災害対応体制、支援ニーズ、災害時の看護職の役割・機能、ケア方法・活動方法の開発について理解し検討できることが挙げられた。

この災害発生時に対処できる卒業時到達目標は、通常の看護実践能力を基盤に災害看護を教育することが必要である。そのため学士課程においては、看護専門科目、看護関連科目、教養科目を通して地勢や人々の生活態様と関連させて、災害看護を含めた健康危機およびその管理に関する内容を教授することが検証された。

これらの研究過程はデータ分析と先行研究の考察から構成されており、学士課程における災害看護の推進・充実に示唆を与え、評価できる。本研究科の倫理基準に基づいており、倫理上問題なく、論旨に一貫性があり適切に記述され、博士論文審査基準に適合していることを確認した。なお、審査会議のうち 4 回は当該学生が出席し、主査・副査から直接指導を受け、さらに口頭試問に回答した。その結果、博士論文最終試験審査基準を充たしていると判断し、合格とした。

以上のことから、本論文は博士論文として価値あるものと認める。